



第 135 号

令和 3 年

10 月 17 日発行

蒼 雲

【発行】

島根県立三刀屋高等学校

〒690-2404

雲南市三刀屋町三刀屋 912-2

TEL : 0854-45-2721

FAX : 0854-45-5630

今年の漢字は・・・

校長 山崎 誠

猛暑や不安定な天候が続いた夏も終わり、虫の音が心地よい季節となりましたが、みなさまにはいかがお過ごしでしょうか。日頃より三刀屋高校の教育活動にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。春に赴任以来、三刀屋高校は、「地域とともにある学校」ということを日々感じているところです。

さる7月6日から12日にかけての大雨により、被害を受けられましたみなさまに心よりお見舞いを申し上げます。学校行事や地域活動はもちろん、日頃の教育活動において、地域の皆様から温かいご支援ご協力をいただいていることを実感しているだけに今回のことには心を痛めているところです。学校から明るい話題を提供していくことも、復興復旧をしていくうえでは大事なことであり、今後ますます地域の方とともに学校を盛り上げていくことを肝に銘じていきたいと思っています。そして、地域から信頼され、生徒の主体性を育みながら、総合的な人間力の育成を通して、魅力と活力のある学校となっていきたいと思っています。

学校の取り組みや目指す方向をわかりやすくするお伝えするため、「三刀屋高校ブランドデザイン」を策定しました。島根県教育委員会や三刀屋高校のホームページで公開していますのでご覧いただければ幸いです。

さて、コロナ禍の中での開催ということと様々な議論を呼んだ2021年東京オリンピック、パラリンピックが終わりました。思えば10年前の2011年には東日本大震災が起きました。20年前の2001年にはアメリカ同時多発テロが、30年前の1991年には湾岸戦争が起きています。

また、1991年はバブル景気の終焉と失われた10年の始まりと歴史の中では位置づけられている年です。ここ30年間、こうした苦難をわたしたちは普段の努力で乗り越えてきました。そして様々なことも学んできました。今の生徒たちは、2011年の記憶がぎりぎりあるかないかくらいかと思っています。この10年は、夢を持つことや絆の大切さを感じながら、連携、協働を育んできた10年であったと思っています。

ちなみに、20年前の「今年の漢字」が「戦」。すべての出来事に「戦いの世」を実感したのが選定理由とのこと。見えない明日、見えない敵、自分自身とも戦った年だったとされています。10年前の今年の漢字は「絆」。大規模な災害の経験から家族や仲間など身近でかけがえのない人との「絆」をあらためて知り感じました。人と人との小さなつながりは、地域や社会などのコミュニティだけでなく、国境を越えた地球規模の人間同士の「絆」の基盤となっていくことを学びました。SNSをはじめとするソーシャルメディアを通じて新たな人との「絆」が生まれ、旧知の人との「絆」が深まる契機ともなりました。今は、逆にソーシャルメディアによって「絆」が断ち切られる事も起きており、「絆」の大切さをあらためて「共生社会」「多文化共生」の中で考えさせられたのが今年の東京オリンピック、パラリンピックだったと思っています。

残念ながら、今年の漢字「絆」が始まったのが1995年からなので、1991年の今年の漢字はありません。1995年は阪神・淡路大震災があったことなどから「震」、昨年は「密」でした。

今年の漢字は何でしょうか？ 5年前のリオオリンピックの年が「金」でしたので、

東京オリンピック、パラリンピックも金メダルラッシュでしたが、「金」とはならないと思います。

私個人としては、夢を膨らませていくためにいろんな事に挑戦したり活動したりする多感な高校時代に、コロナで制約の多い学校生活、教育活動が続く中で、生徒のみなさんが本当によくがんばっていることから、「忍」か、その中でも対策や工夫をしながら部活動や学園祭等で躍動したことから「躍」としたいと思っています。

コロナが一過性のものではなく、長く続くことが予想され、新しい生活様式のもと、意識、考え方、行動等を変えないといけないと感じた一年でもある気がします。変わらなければいけない一年であることから、一人一人にとっては「変」かもしれません。

自分を変えることはなかなか難しいものです。しかし誰かが変えてくれるわけではありません。自分で動くしかありません。生徒のみなさんの中には、自己実現に向けて「自分を変えなければ」と思っている人も多々います。思っているだけではなく、チャレンジして変身する年にして欲しいので、「挑」がいいかもしれません。今年の合い言葉も「小さな挑戦、小さな善行、確かな（大きな）志」としています。

マスクをしているため表情も伝わりにくく、また対面での会話も気をつけなければならず、自ずと笑顔がなくなり、挨拶がしにくい雰囲気もある中、三刀屋高校生はよく挨拶をしてくれました。そういう意味では、「明」でしょうか。

今年度もあと半年あまり。春を迎えるころには、みんなが「笑」顔であって欲しいと願っています。

校長室だよりを不定期に発行しています。学校のホームページにも掲載しています。ホームページを通じて、学校や生徒の活動も発信していますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

今年の
テーマ

“lim MTY → ∞ ～無限に向けて・いざ!～”



生徒会長 3年3組 長谷川 剛士

こんにちは。長いようで短かった三高祭も終わり、3年生は自分の進路実現に向けて、1、2年生は勉強や部活、またはその両立のために努力しているのでしょうか。3年生は推薦入試や公務員採用試験がある人ともいます。大学受験や就職試験に向けて頑張りましょう! 1、2年生の人たちも、部活が忙しくて勉強ができないという人も、勉強しましょう。3年生になってから困ってしまします。あと、恥ずかしがらずに、何にでも挑戦してください!

最近「夢を叶えるゾウ」を見て、僕も何か始めようと思い、経済についての本を読み始めました。本は、学校では教えてもらえないことや人生において大切なことも書いてあり、とても役に立ちます。これから月に3冊は読もうと思っています。図書館に行き始めると、行くのが楽しくなってきました。みなさんぜひ、図書館に行つて良い本に出会ってください。



黄組

3年2組 日野コウキ

去年に引き続き今年もコロナ禍での三高祭となりました。特に今年は球技大会などのイベントも大雨などの影響により中止になることが多かったので、心配もありましたが、三刀屋高校生、先生方も含め全員で成功させることができたことは、一生の思い出になりました。全校で一つのことを成功させるというのは、本当にすごいことなのだと改めて感じました。来年も三高祭を成功させてほしいと思います。このご時世で、今できる最高の祭りになったと思います。最高の夏になりました。ありがとうございました!!



赤組

3年1組 勝田郁人

人生で一番最高に暑い夏だった。1日目、2日目は楽しすぎて鮮明に覚えている。そして人生で最高の体育祭。これがまた最高すぎた。競技ではダメダメだったが、応援では練習の成果を出すことができた。最後まで全員の笑顔が途切れることはなかった。そして最後に一言だけ言いたい。「最後の総合リレー 1人でも抜いて、もてたかったー」もう二度と戻って来ない最高の夏は終わった。



紫組

3年4組 西村元葵

「三位、紫組」体育祭でのその結果は、僕に悔しい思いを与えたと同時に、三高祭の沢山の出来事を思い返させました。みんながみんな、いっぱい悩み考え、それからたくさんダンスを練習して衣装を作ったりデコを作ったり、それぞれにとっても頑張りました。勉強そっちのけで三高祭に熱を注ぎ、みんなで一つになれたのは本当に最高の思い出です。悔しい気持ちもありますが、それ以上のうれしく楽しかったこと、言葉では表せないすばらしい青春が心に残りました。この思い出を糧にこれからもがんばりまっしょい。



青組

3年3組 川隅雄大

三高祭は私にとって最高の三日間になりました。最初は色長として何をやっていいのかわからず、思ったより準備期間も短くて大変でした。ですが、3年生のみんながとてもよく動いてくれて、1、2年生もついてきてくれたので、最高の準備をして学園祭に臨むことができました。本番では準備してきたことを出し切ることができました。また、体育祭では優勝することができました。本当に1～3年生全員でつかみ取ることができた結果であったと思います。できることならもう一度、三高祭をしたいくらいです。一生の思い出に残る、最高の三高祭になりました!